

男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会通信

事務局 秋田県立支援学校天王みどり学園 発行 平成30年3月 7日 No.14

今年度も、「おらほ（地域）の子どもは、おらほ（地域）で育てる」をキーワードに、6市町村全てで第2回目の連携協議会を開催することができました。今年度は、新たな取り組みをスタートさせたところも多い1年でした。各地で活発な情報や意見の交換ができました。

男鹿市連携協議会 平成30年1月11日（木）14:00~15:30

◎毎年、地元で2回の開催をしています。今回から、メンバーからの要望もあり、男鹿市の幼稚園・保育園・認定こども園、小学校、中学校、高等学校の全てに参加を呼び掛けて開催をしました。15の学校・園から参加者が見られ、活発な意見交換ができました。

<主な内容>

・満5歳健康相談のフォローについて

○月1回園訪問を行い、必要があれば、幼児けんこう教室への参加を促したり、巡回相談を受けることを勧めたりしている。園と連携を図り、早い段階から子どもや保護者に働きかけている。園からは、ここ数年で保護者の受け止めが良い方向に変化してきているとの声も聞かれるようになった。

○来年度は、年3回（1・2・3月）、保護者への学習会の開催を検討している。併せて個別面談も希望者に実施し、年長クラスへの進級がスムーズに移行できるようにしたい。

・ことばの検査について

○今年度から、市内の1年生全員に実施した。ことば、視機能、行動の様子の観察を行っている。保護者に不安や誤解を与えず、効果的に行うためにも、今後は、記録のとり方や担任等との事後カンファレンスの進め方等を工夫していきたい。

・児童虐待や貧困の問題

○生活困窮、虐待などの問題は、関係機関と連携して対応していく。このような機会に、確認しておきたい。相談、通告があった場合は、要保護児童対策地域協議会や生活困窮者自立相談支援の一環で対応していくので、情報を得たらすぐに福祉事務所に教えてほしい。

・高等学校から

○高等学校でも中学校との情報の引継ぎを（特に1年生のうちは問題が多い場合もあるので）、個別の指導計画などを活用しながらコーディネーターが中心となってしっかりとやっていきたい。

大潟村連携協議会 平成30年2月14日（水）14:00~15:30

◎地元開催となって2年目です。今回は、保護者との関係の作り方、進路につながる連携の在り方等についても、各方面から活発な意見が出されていました。来年度から満5歳児健康相談（仮称）がスタートする予定です。

<主な内容>

・今年度も園訪問やことばの検査を行っている。教育支援委員会を通して、滑らかな支援ができるように引き継ぎ資料（幼、小、中）の様式を統一した。

・満5才児健康相談の実施にあたっては、教育委員会で予算や立案を行い、保健センターで臨床心理士などのスタッフを確保したい。

・大潟つくし苑には、サービスの利用者だけではなく、大潟中学校生徒が職場体験に来たり、特別支援学級の生徒が見学に来たりしている。地域の事業所として、「将来的な障害福祉の仕事」としても興味をもって欲しいという思いもある。

・福祉の面からも、母親へのフォローが大切だと考えている。聞けば「大丈夫」と答えるが、実際は進路に悩んでいるというケースもある。各機関と連携を図って対応していきたい。

・小学校から

○子供を客観的に見る機会があればよいのだが、保護者の理解を得るのが難しいケースがある。障害がオープンだと信頼関係を築きやすいし、外部機関との連携も築きやすい。

・保育園から

○来年度は、1歳児に気になる子供がいるため、園内支援委員会を開く予定。会の効果的な運営のために、天王みどり学園からも協力してもらいたい。

八郎潟町連携協議会 平成30年2月19日(月) 14:00~15:30

◎「4歳児健康相談」、「ことばの検査」と新たな取り組みが多かったです。話題もその2点に関するものが多かったですが、さらに、小学校で実施した障害理解の出前授業の話題で盛り上がりました。

<主な内容>

・4歳児健康相談の実施から

○幼稚園、保育園、天王みどり学園と連携して初めて実施した。フォローが必要な幼児はいなかったが、今回の実績を今後の就学時検診にも活用するなど、来年度に向けて検討を進めていく。また、相談会の意義（何か気がかりなことがあった場合に、いつでも相談できる場があることを知る）を感じてもらえるように、保護者への広報、説明の仕方を工夫していく。

○保育園と幼稚園の子どもと一緒に遊ぶ姿が見られ、就学に向けて安心できたと話す保護者がいた。できれば、相談会后に各幼稚園、保育園で、気になる幼児についてその後の様子を観察相談できる場を設けてほしい。

・ことばの検査の実施から

○小学校からは、担任が気になっていた児童が、検査担当者の見立てと一致し、担任の支援に対する疑問の解消、今後の支援策の検討につながったことが成果の一つとして挙げられていた。

4歳児健康相談→就学時検診→ことばの検査と、早期からの支援体制として形はできた。点を線でつなぎ、さらなる支援体制の強化を図りたい。

・放課後等デイサービスについて

○八郎潟、南秋湖東地区は放課後等子どもを預ける場所や施設がない。南秋つくし苑は制度的に児童を受け入れることは可能で、少しずつ受け入れていっている状況もある。

・障害理解の出前授業について

○小学校で、1～6年生に障害理解学習を行った。来年度も是非実施したいという声が職員からあがっている。また、障害理解を効果的に進めていくためには、家庭の教育力の大切さを感じているので、保護者へも参加を強く呼びかければよかった。中学校での出前授業も実施したい。

五城目町連携協議会 平成30年2月28日(水) 14:00~15:30

◎今年度は、園や小学校と連携して就学支援シートの見直しを行いました。保護者が記入しやすいように記入例を記載したり、チェックリストを添付し小学校側が最低限知りたい情報を把握したりできるようにしました。シートの保護者への配付を早めるなど、毎年、改善し実施しています。

<主な内容>

・ことばの検査について

○今年度、小学1・2年生を対象にことばの検査を実施した。H30も実施予定。

○健診を受けるように言われても受けない家庭は、小学校のことばの検査で課題を指摘されると、健診で声をかけられた意味を考え直し、子ども見つめ直すことにもつながると思う。

・5歳児健康診査について

○来年の5歳児健診には、学校教育課も参加することになった。

○保健師は、健診後のフォローとして、保護者との信頼関係を築くためにも、療育センターの受診にも付き添っている。小学校入学後も保護者から相談を受けることがあり、保護者の相談窓口として確立されている。

・認定こども園から

○1月に、4・5歳児の保護者対象の講話会（特別支援教育アドバイザー）を開いた。5歳児の保護者の参加が多く、小学校入学への不安が垣間見ることができた。講話会に参加できてよかったという保護者の声が聞かれた。

○子育て支援センターで、子どものことを気軽に相談できる子育て相談会の実施を検討中である。

・支援員の連携について（小学校）

○支援員が記入した記録ファイルは毎週回覧し、月1回、校長、教頭が参加して連絡会を実施。

○支援員の研修は4月に県でも実施している。特別支援アドバイザーや中央教育事務所の指導主事が学校に出向く配置校研修も活用してほしい。

・中学校から

○担任の負担軽減のために、個別の指導計画を簡略化した。A4版2ページを1ページにし、目標も1～2つにした。職員の共通理解の基に指導支援するためにも簡略化に取り組んだ。

湯上市連携協議会 平成30年2月8日(木) 14:00~15:30

◎年中親子相談会も2年目となり、新たに幼児版通級指導教室によるフォローがスタートしました。また、ことばの検査実施時における保護者への配慮の在り方や、高等学校における特別な支援が必要となる生徒への対応まで、幅の広い協議がされました。

・「年中児親子相談会」について

○乳幼児健診、園、地域、家庭の様子などの情報が集約される。それを基に子どもを観察できるため、子どもの深い見取りができる良い機会である。

○事後フォローとして、特別支援アドバイザーが幼児通級「わくわくタイム」を実施している。現在、希望があった家庭の幼児8名が利用しており、落ち着きの無さ、発音などの幼児に合わせた指導を行っている。来年度はもう少し多くの幼児の支援を行いたい。

・「地区別連絡協議会」について

○メンバーは、幼・保の園長、小・中学校は教頭または校長、生徒指導主事、教育委員会。以上が中学校区ごとに一同に集まり意見交換をしている。長い目で子どもや家庭に対しての支援ができる貴重な話し合いの場になっている。

・「ことばの検査」について

○客観的なテストではないが、ことばの実態を探るだけでなく、行動観察をもとに支援方法も知ることができる奥深く重要なものになっている。ことばの検査は、今後の支援の方法を探るものとしてとらえていき、保護者が誤解するような伝え方をしないように気を付けたい。

・幼稚園から

○年中親子相談会を行っているが、「まだ大丈夫」と気にしてほしい保護者が気にしないことがある。天王みどり学園のセンター的機能などを活用し、保育参観と研修を合わせて実施する場を設けるなどして、保護者の気づきを促せられればと思う。

・小学校 中学校 高等学校から

○支援員との情報交換を毎月行っている。気になった内容は、関係の職員に伝え学年部会で話題にしている。

○特別支援学校に相談してよいケースなのか迷うことがある。天王みどり学園から高校に来校してもらい(学期に1回程度)、高等学校の特別支援教育コーディネーターと情報交換をする場があればよい。



井川町連携協議会 平成30年2月26日(月) 13:30~15:00

◎今年度は、「こどもセンター相談会」(年中児相談会)を第2回連携協議会に置き換えて実施しました。(主催は井川町)。小・中学校の先生たちにも「こどもセンターの相談会」に参加してもらい、活発な意見交換をすることができました。

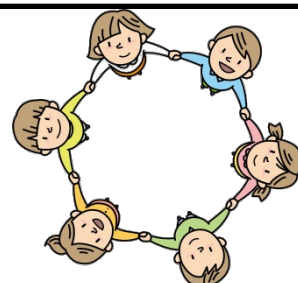
対象幼児ごとの個別のカンファレンスの後は、希望する保護者と個別面談を実施しました。

○カンファレンスから

・小学校で大切だとされる力について小学校の先生から話を出してもらった。

・支援員の専門性についてまでも話が広がり、4月に、関係機関が連携した支援員対象の研修会を実施したい。

・このような形で連携協議会を実施するならば、話し合われたことを園での支援に活かしていくためにも、時期はもっと早めにしてほしい。



6市町村での連携協議会を終えてみて

接続期を支える、縦糸（継続した支援）と 横糸（連携した支援）をつむぐ支援体制

「法定健診」⇒「満5歳健診・相談」⇒「就学時健診」⇒
「ことばの検査」⇒「学校間の連携」⇒「卒業後のサポート」

早期からの相談支援体制としては、上に示した流れのように、法定健診から学校間の連携、卒業後のサポートまでが挙げられます。今回6市町村の連携協議会を実施してみて感じたのは、どの市町村においても、接続期を支える、縦糸、横糸をつむぐ作業が年々着実に進んでいる状況にあります。

幼稚園・保育園から高等学校までの関係者が集まる機会でもあり、学校間の引き継ぎの在り方なども活発に意見交換がされました。6市町村で話題になったことを、まとめて紹介します。

○満5歳健診・相談

- 来年度より本地域では、満5歳健診・相談の実施率が100%になります。しかし、保護者の子どもの捉え方について、まだまだ周囲とのギャップが見られるケースもあり、保護者への周知の仕方を工夫したり、保護者向けの研修会の設定などとリンクさせたりするなど、今後、さらに意見交換を深めていかねばならないところだと思います。
- 幼児通級教室などのきめ細かい事後フォローの取組なども始まっています。また、相談会には、「小学校からもスタッフが1人入ってみてはどうか？」などという意見が出されるところもありました。今後も、関係機関が連携を深めながら、保護者もメリットを感じられるような取組にさらに発展していくことが予想されます。



○ことばの検査

- 検査の実施は、担任等にとって、子どもの実態把握と普段の支援の振り返りをするにもつながり、適切な支援への気付きの場となっているようです。しかし、保護者にとっては、「障害のレッテル貼り」と感じてしまう場合もあるので、事後の説明の仕方や保護者面談での伝え方など、今後お互いの取組の良さなどをシェアしながら進めていきたいです。

○就学支援シート、個別の支援計画、個別の指導計画

- 就学支援シートについては、他地域での取組も参考にしながら、保護者や本人の思いを汲んだ支援につながるように、様式や作成時期を見直し、また、体験入学や就学時健診の前資料としても活用できるようにしていきたい等の意見が多く聞かれました。
- 個別の支援計画、個別の指導計画については、作成する担当者の負担感が話題に上がっていました。校内委員会での作成や評価の話し合い時には、センター的機能を活用し特別支援学校の関係者もメンバーに加えるなどして、複数の視点から適切な目標設定ができるように運営の仕方を検討してみるなどの意見も聞かれました。

○障害理解教育

- 今回の連携協議会では、本校からも、地域の特別支援学校としてのセンター的機能の取組なども紹介をさせていただきました。特別な教育的ニーズを必要とする子どもはどの学級にも見られるようになってきています。個への支援とともに、集団への支援がとても重要になってきています。地域における障害理解の出前授業の実践についても紹介させていただきました。来年度より、新たに組み組んでみたいという声や、ぜひ、保護者にも伝える機会が欲しいという声も聞かれました。

「地域で特別な支援が必要な子ども・保護者を支える・つなぐネットワークの構築」が本連携協議会のテーマです。来年度も、途切れない支援ができる体制づくりの強化のために、関係機関が顔を合わせて情報や意見交換ができる場作りをみなさんと一緒にしていきたいです。御協力よろしくお願い致します。

平成30年度の第1回目の男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会は、6月に本校を会場に実施する予定です。ぜひとも、御参加ください。